

2020.6.30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）はしばらくの間、中止させていただきます。

★「おうちでおはなしかい」（6月）

おうちでおはなし会をはじめよう！ちっちゃいおともだち、あつまれ！

当館でのおはなし会ができない間、ホームページ上でおはなし会のプログラムと関連する絵本の紹介をします。ご家庭でおはなし会をどうぞ。紹介した本は、「あかちゃん絵本」コーナーで展示しています。

http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/ohanashikai_web_202006

★「第2回新刊児童書閲覧会」

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○期間：7月22日（水）～7月29日（水） 9：00～17：00 *7月27日（月）を除く（休館日）

○定員：一人1時間、各時間帯10名程度（要申込み）

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等

○申込方法：7月10日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★「第1回学校図書館セミナー」

○会場：山口県立山口図書館 レクチャールーム

○日時：8月28日（金） 14：00～17：00（受付13：30～）

○内容：【講義】「今、考えたい、学校図書館利活用の意義」 講師 堀川 照代 氏

○定員：60名（要申込み、先着順）

○申込方法：8月14日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『あかちゃんとわらべうたであそびましょ！』 さいとうしのぶ/構成・絵 のら書店 2020.4 ¥1200

「ちっちゃいまめこころ」 「にゅうめんそうめん」 「あずきちよめちよ」 「きゅうりのおつけもの」 「めんめんすーすー」 など7つのわらべうたを、さいとうしのぶさんのかわい絵で、遊び方を楽しくわかりやすく紹介する。巻末には楽譜も掲載されており、すぐに赤ちゃんと一緒に手や体を使って、親子でスキンシップしたくなる、わらべうたの絵本。

＜絵本－5, 6歳から＞

『ぼくだってとべるんだ』 フィフィ・クオ/作・絵 まえざわあきえ/訳 ひさかたチャイルド 2020.4 ¥1300

ちいさなペンギンがそらをみあげていました。「ぼくもはやくおそらをとびたいな」するとかもめはいました。「あのねえ、ペンギンはそらはとばないの！」羽があるんだから飛べると思ったペンギンは何度も羽をバタバタさせてはばたく練習をするが、とうとう海に落ちこちて…。海の中で、初めて泳いだペンギンが気付いたこととは？優しいタッチの鉛筆画が心温まる可愛い絵本。

『あかずきん』 グリム/[原作] 大塚勇三/やく 堀内誠一/え 福音館書店 2020.5 ¥1400

誰もが知っているグリム童話『あかずきん』。約50年前にペーパーバック版で出版された、堀内誠一の絵によるグリム童話絵本を、原画から新たに製版し、最新の印刷技術を駆使して美しい色を再現した新装版。訳は『スーホの白い馬』など海外児童文学の翻訳を多く手がける大塚勇三。洒落でユーモア漂う堀内誠一の絵が素晴らしく、大人も子どもも楽しめる一冊。

＜絵本－小学校低学年から＞

『ながいもふん みじかいもふん』 リズ・ガートン・スキャンロン/文 オードリー・ヴァーニック/文 オリヴィエ・タレック/絵 木坂涼/訳 光村教育図書 2019.10 ¥1400

順番を待っている時は5分なんて待てない！って思うけれど、ジェットコースターに乗っている時、5分はあっという間。歯医者さんで「たった5分。すぐ終わるからね」と言われても、全然すぐじゃないよ！って思っちゃうし、ゲームしている時の5分は短く感じる。同じ5分でもこんなに違う。きみのその5分は長い？短い？第66回青少年読書感想文全国コンクール低学年の部課題図書。

『ぼくは犬や』 ペクヒナ/作 長谷川義史/訳 ブロンズ新社 2020.4 ¥1400

ぼくは犬のグスリ。数年前、お父さんとおばあちゃんとドンドンのいるこの家の家族になった。もうすぐ6歳になる男の子ドンドン。悪さするくせにすぐ泣くし、おもしろいし、どうしようもないやつだけ…。犬のグスリの目線から家族と自らの日常を描く。関西弁の訳が作品の世界にぴったり。人形、セット、撮影を一人でこなす、独特のファンタジー世界を創り出す作者の新作。

＜絵本－小学校中学年から＞

『まっくろいたちのレストラン』 島本理生/作 平岡瞳/絵 瀧井朝世/編 岩崎書店 2020.5 ¥1500

ひとりぼっちで森に暮らしていたまっくろいたちは、レストランを始めることに。鋭い牙をみんなが怖がると思い、ずっと背中を向けて料理をしていた。レストランは繁盛し有名に。ある日、谷の向こうのうさぎのお嬢さまがやってきて…。誠実なまっくろいたちの恋の行方は？版画絵で表現された冬の夜の青い世界や、赤い野ざらの春の情景が美しい。「恋の絵本」シリーズの一冊。

『まほうのおまめ だいずのたび』 松本春野/文・絵 辰巳芳子/監修 文藝春秋 2020.4 ¥1500

一粒の大豆が、木枯らし吹く晩に旅に出た。春になり根っこをのぼした大豆はどんどん大きくなり、緑色の豆から茶色い豆へ。豆腐に納豆、しょうゆにお味噌、きなこにおあげ、色々なものに姿を変えて、私たちの命をつないでくれる。日本の食に提言しつつける作者が提唱する「大豆百粒運動」の活動の紹介や、学習の参考になるデータや知識が満載。水彩画の優しい絵も魅力的な食育絵本。

<読み物一小学校低学年から>

『ぼくはおじいちゃんのおにいちゃん』 堀直子/作 田中六大/絵 ポプラ社 2020.4 ¥1000

夏休みの初日、カイトの家にやってきた九州のおじいちゃん。カイトのことを、おじいちゃんのお兄さんの名前「まもるにいちゃん」と呼ぶ。少しいんなことが分からなくなっているらしい。一緒に夏休みの期間を過ごすか、だんだんお世話が大変になってきて、9月から海の見える施設に入ることに。おじいちゃんの変化に戸惑いながらも、理解し心を寄り添わせる男の子のお話。

『そのときがくる』 すずきみえ/作 くすはら順子/絵 文研出版 2020.4 ¥1200

ぼくは学校が大好きな小1のたくま。でも給食になすが出る日は学校へ行きたくない。あの苦くてぐちゅぐちゅした食感を思い出して食べられないんだ。夏休みに泊まったじいちゃんちでは、畑で育てたなすが毎日のように出てくる。食べられずにいると、じいちゃんは「そのうちきっと、食べられるときがくる」って言ってくれるけど…。同じ思いをもった多くの子どもに希望を与える1冊。

<読み物一小学校中学年から>

『ごきげんな毎日』 いたうみく/作 佐藤真紀子/絵 文研出版 2020.4 ¥1300

家族念願の庭付き一戸建てに引越してあこがれのひとり部屋を手に入れた小4の喜一。その2か月後、長野のおばあちゃんが越してきて同居することに。喜一はおばあちゃんに部屋を譲り、居間に荷物を移動する。このおばあちゃん、越してきてから毎朝一人で出かける、夕方には病院の匂いをさせて帰ってくる。なんだか心配な予感が…。『毎日新聞』西日本版連載を加筆・修正して単行本化。

<読み物一小学校高学年から>

『父さんが帰らない町で』 キース・グレイ/作 野沢佳織/訳 金子恵/絵 徳間書店 2020.4 ¥1400

父親は5年前に戦争に行ったきり帰ってこず、母親と兄と12歳の少年の生活は決して楽ではなかった。1922年、そんな少年の住む町にカーニバルがやってきた。母親に頼み小遣いをもらい、出かけたカーニバルで衝撃を受けたのは、蟬人形の「最後の兵士」。少年は恐怖におののいた人形の表情に父親の姿を重ね、心を痛める。人生の転機となる、カーニバルが去るまでの3日間の物語。

『おっちょこ魔女先生 保健室は魔法がいっぱい!』 廣嶋玲子/作 ひらいつかこ/絵 KADOKAWA 2020.3 ¥900

小5のいさなの学校の保健室の先生は、ドジばかりしてるから通称「おっちょこ先生」。実はこの先生が魔女であることを知ったいさなは、ハムスターに変身してしまった先生から、元の人間に戻るために、魔物を捕まえて魔気を集めてくるよう頼まれる。魔物にとりつかれた人間は多いもので、猫舌に閑古鳥、一匹狼に野次馬と、次々と見つけていくが…。人気作家の新シリーズ。

<読み物一中学生から>

『コピーボーイ』 ヴィンス・ヴォーター/作 原田勝/訳 岩波書店 2020.3 ¥1800

吃音に苦しんでいたヴィクターを教え導いてくれたスピロさんが亡くなった。大学進学を控え、新聞社でコピーボーイ(雑用係)をしていた彼は、故人との約束を果たすため、ミシシッピ川の河口を目指す。信頼できる大人たちや、魅力的な女の子と出会いながら、猛烈なハリケーンが迫る中を大奮闘。『ペーパーボーイ』の6年後、大きく成長した青年の姿を描く。STAMP BOOKS。

『兄の名は、ジェシカ』 ジョン・ポイン/著 原田勝/訳 あすなろ書房 2020.4 ¥1500

4歳年上のジェイソンは、ぼくの自慢の兄。サッカー部のキャプテンで人気者、難読症のぼくに勉強を教え、相談に乗ってくれる。その兄さんが、ある日、家族に自分の本当の性は女だと思いと告白。そのせいでぼくは友達にいじめられ、閣僚から首相を目指していた母の地位も危うくなり…。ジェンダーの問題について、家族がどう向き合っていくかを弟の視点から、時にユーモラスに描く。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『海のプラスチックごみ調べ大事典』 保坂直紀/著 旬報社 2020.3 ¥3800

プラスチックが広く使われるようになってたった100年で、世界の海がプラスチックで汚されている状態になった。マイクロプラスチックは、やがては人間の体の中に入る恐れもある。早急にこのごみの問題を解決しなければならなくなった危機的現状や、今、私たちにできること等を、イラストや写真を多用してわかりやすく説明。菖市の情報も掲載。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『ホントに食べる?世界をすくう虫のすべて』 内山昭一/監修 文研出版 2020.4 ¥3600

虫グルメの人によるとおいしい虫のナンバーワンはセミ。幼虫も成虫も、抜け殻までもおいしく味わえるからだという。少しのエサで成長し、食べられる部分が多く、なにより温室効果ガスの排出も少ないため、地球を救う食材になると言われている「虫」。大切なたんぱく源として今注目の、日本にいる身近でおいしい食べられる虫を紹介。虫のつかまえ方や料理の仕方も説明する。

<ノンフィクション一中学生から>

『10代のための資格・検定 可能性を広げる道しるべ』 大泉書店編集部/編 大泉書店 2020.4 ¥1400

10代でも取得可能な資格・検定について、語学や技術が身につく、競技に関わる、パソコンやIT業界につながるなど8つのジャンルに分け、おすすめのタイプの人、試験の傾向や対策、資格等の活かし方などを解説。気象予報士、野菜ソムリエ、サッカー審判員、ロボット検定、お好み焼き検定や掃除能力検定などのおもしろ資格も満載。自分に合った資格・検定にチャレンジしたくなる書。

『あなたの不安を解消する方法がここに書いてあります。』 吉田尚記/著 河出書房新社 2020.4 ¥1400

アナウンサーとなり「コミュ障」を克服した著者が、14歳の頃、最も切実だった「不安」の問題について、ラジオ風にお悩みを紹介しながら、誰でもできる不安解消メソッドを具体的に示す。不安の原因はコミュニケーション?コミュニケーションは練習が必要?不安を解消するには知らない人に話しかける?ラジオパーソナリティ口調で楽しく読者に語りかける。14歳の世渡り術。

<研究書>

『赤羽末吉 絵本への一本道』 コロナ・ブックス編集部/編 平凡社 2020.5 ¥2000

日本人ではじめて国際アンデルセン賞画家賞を受賞した赤羽末吉。50歳でのデビュー作『かさじぞう』に至るまでの半生、『スーホの白い馬』などの代表作が生まれた経緯、作品への思いなどを、多くのカラー図版や寄稿で紹介。赤羽末吉の絵や絵本の魅力、子供への眼差しを知ることができる1冊。インタビュー・3人の息子が語る「おやじさん」も収録。絵本著作リスト、略年譜あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。